



法政大学アカデミー合唱団 50周年記念事業 情報NEWS

アカデミータイムズ 増刊号

Festival NEWS vol.15-2 掲載用

佐藤さんのメッセージと急告！！

発行 OB会事務局

H23.6.11



さらに誇りと自信と

1期 佐藤 隆 衛

未曾有の東日本大震災から三ヶ月経ちました。皆さんから電話やメールで沢山の激励とお見舞い戴き誠に有り難うございました。幸い我が身に被害はなかったものの、被災した諸状況を考えてと憂慮せざるを得ず、未だに平常な気持ちを保てないのが現状です。是非アカデミーの皆さんにお会いしてエネルギーを蓄えたいものです。

さて、50周年記念フェスティバルが間近に迫りました。数年前からこの記念行事を企画し、着々と準備された役員と事務局の方々には頭が下がります。本当にご苦労様です。

アカデミー合唱団創立当時は、近い将来日本一の合唱団になるとは確信していましたが、50年後など誰も想像しなかったのに、実際半世紀の年輪を重ねました。どう考えてもそんなに長い時を経たという実感がなから不思議です。結局あの4年間の合唱体験は単なる4年という時間の流れではなく、いかに濃密な時間であったかという証拠です。良き師良き友に恵まれて感動を共有できたからと思います。これほど大きな誇りはなく、また生きる自信につながるのですから、アカデミーライフは生涯の財産です。

私は改めて、30周年記念誌「陽ちゃんと歩んだ30年」や「CONDUCTOR」を読み返してみました。福永先生の人間味に溢れた音楽観と、深くて広い洞察力は決して他の追従を許さない「哲学」だと思いました。それがアカデミー合唱団の伝統を築いた根源であり、先生亡き後でも今日の隆盛を築かれたアカデミアンの努力と、関屋先生や浅井先生、そして小久保先生等には心から敬意を表さずにおれません。

現役の学生諸君はもはや我々の孫の世代です。私などどう見ても古ぼけた先輩で、本来ならホールの片隅でひっそり聞いているはずの者が指揮台に立つ、というのは望外の光栄かもしれませんが、長いことノックバットを振ったマメだらけの手で棒を振るのですからまるで勝手が違います。最初から頭が真っ白になったまま終わり、礼もせずスタスタと駆け足で引っ込みかねません。スタートが最悪ですべて帳消しにならないよう努めたいと思いますので、皆さんどうか胸を広げて存分に歌ってください。

フェスティバル合唱団の皆様へ！

次回練習(6/25)の練習時間いつもと違います。15:00~19:00です。

会場は 小松川さくらホール

今週、土曜日の現役の練習に44期の「鳥が」を振る関君がいわきより上京されます。

玉木くんも上京し現役練習でふりますのでお時間ある方は是非ご参加ください。

練習会場、時間等は確認出来次第ホームページに掲載します。(現役スケジュールをアップの予定)